日本証券奨学財団奨学金への感謝

公益財団法人資本市場研究会
常務理事　**永田　寛幸**

学生時代の話であるが、日本証券奨学財団の奨学金をいただいていた。40年前の話なので記憶があいまいなところもあるが、この奨学金を知ることになったのは、大学の学生課の担当官に紹介してもらったのではないかと思う。ただし、かなり人気があるから出願しても奨学生になれるとは限らないよと言われたのは、はっきり覚えている。実際、私の通っていた大学の学部生で奨学生になれたのは２名だけだったので、本当に幸運であった。当時は、家計を支えていた父が病気になり全く仕送りのない状況だったので、地方から出てきた身としては、この奨学金なくしては無事に卒業に至らなかったのではないかと思う。しかも、２年生から卒業までの３年間、毎月３万５千円だったと思うが、当時としては結構な金額が、貸与ではなく給付されるというものだった。こうした給付型の奨学金は現在では増えてきているようだが、40年前は本当にごく少数に限られており、その意味でも大変ありがたい奨学金であった。

奨学生に対する温かい配慮もいただいた。奨学金授与式や奨学生修了式が、当時世田谷区にあった日本証券業協会の研修施設で開催され、瀬川美能留理事長をはじめ役員の方々に激励の言葉をいただいた。修了証書には社会のために活躍することを期待するとの一節があり、その後の人生の指針となっている。また、奨学生同士の交流を深める機会として大学毎に懇親会が開催されるなど、勉学だけではない成長の機会を与えていただいたと思う。この度、当資本市場研究会の常務理事をさせていただくことになったが、日本証券奨学財団とのご縁を改めて感じている。

▲修了証書を持つ筆者

さて、読者の中にはご存じの方も多いと思うが、公益財団法人日本証券奨学財団は、1973年（昭和48年）、社団法人日本証券業協会の発足を機に、その記念事業として設立されたもので、資質優秀な学生に対する奨学支援及び学術の研究調査に対する助成等を行い人材の育成、学問の奨励を図り、もって社会の発展と福祉に寄与することを目的として奨学金の給与等の事業を展開されている。中でも、奨学生の専攻分野を限定せず、卒業後の進路も本人の自由という本当に制約のない、奨学生の意思を最大限に尊重した制度であることは、証券界が人材の育成等を通じて広く社会の発展や福祉に寄与するという理念のために貢献しようという心意気を感じる。

昨年、日本証券奨学財団は設立50周年を迎えたが、4,000名を超える奨学生の中には、世界的建築家の隈研吾氏やノーベル生理学・医学賞を受賞された山中伸弥氏がおられるなど、様々な分野で人材を輩出しており、今後ますます社会の発展に貢献されていくことを祈念している。